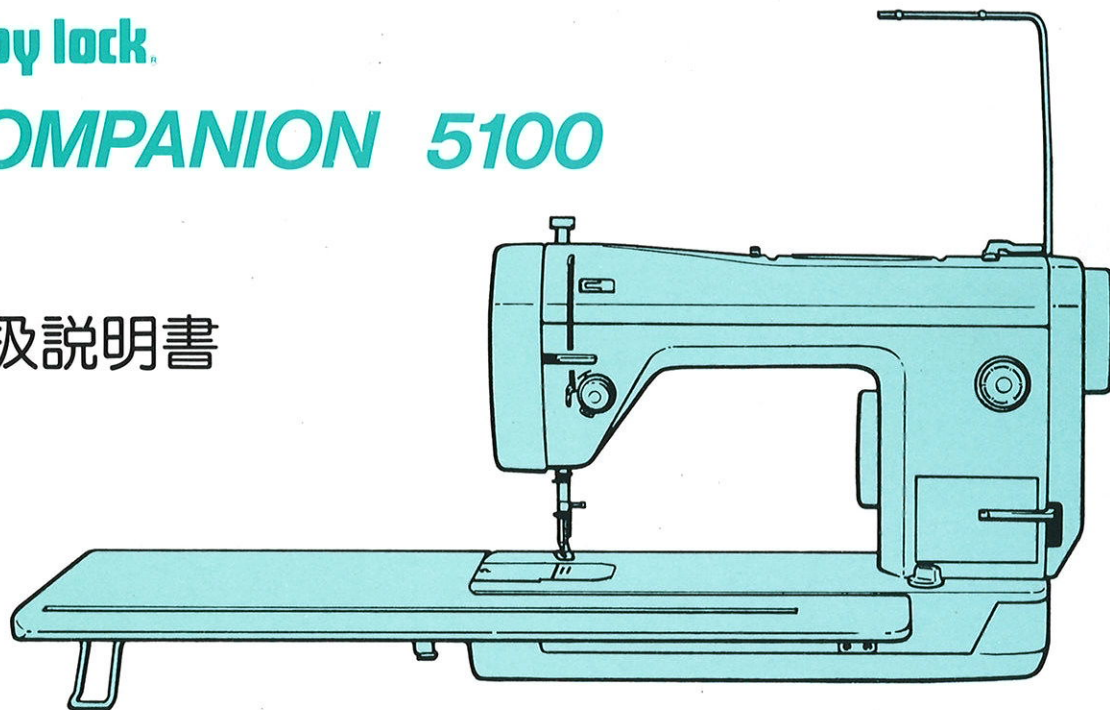


baby lock[®]

COMPANION 5100

取扱説明書



お買い上げまことにありがとうございます。
この製品のすばらしい性能
と、その正しい使い方をご理解いた
だくために、まずこの《取扱説明書》
を最後までよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書とと
もに、必ず保存してください。

本機付属品以外の部品を使用したり、
まちがった取り扱い方をすると故障
の原因になります。

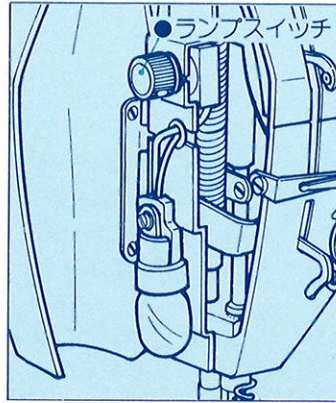
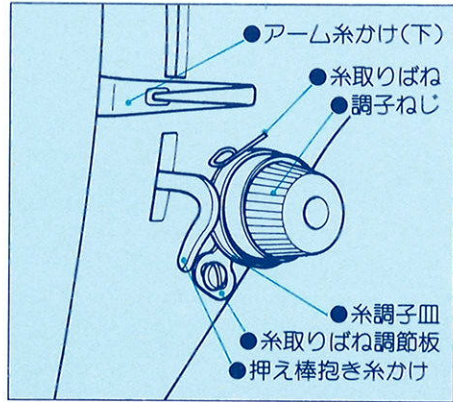
目

各部の名称	1~2
各部のはたらき	3~4
送り調節ダイヤルと返しぬいレバー	3
押え上げてこ	3
ひざ上げレバー	3
押え圧力調節ねじ	4
針を取り替えるには	4
正しい針の調べ方	4
補助テーブルの取り付け方	5
運転の手順	6
上糸の準備	7
上糸のかけ方	8
下糸の準備	9~10
下糸の引き上げ方	11
試しぬい	12~13
糸調子	14
正しいぬい方	15~16
ぬいにくい布地(ところ)のぬい方	17~18
直線ぬい	19~20
付属品	21
付属品の使い方	
押えを取り替えるには	22

次

片押えを使って	23~27
ファスナー付け	23~24
おとしミシン	25~26
ピンタック	27
コンシールファスナー押えを使って	
コンシールファスナー付け	28
三つ巻き押えを使って	
三つ巻きぬい	29~30
針板の取り替え	31~32
簡単な調整	33~34
下糸巻き案内の調整	33
糸取りばねの調整	33~34
糸取りばねの運動量の調整	34
ミシンの手入れと注油	35~36
送り歯とカマの掃除	35
注油	35~36
調子よくぬえない原因と調整の仕方	37~38
いつまでも大切に使うために	39~40
いつもきれいに	39
ミシンが動かなくなった場合	39
カーボンブラシを取り替えるには	40
仕様	40

各部の名称



●ダイヤルテンション

●補助テーブル

●テーブル脚

●面 板

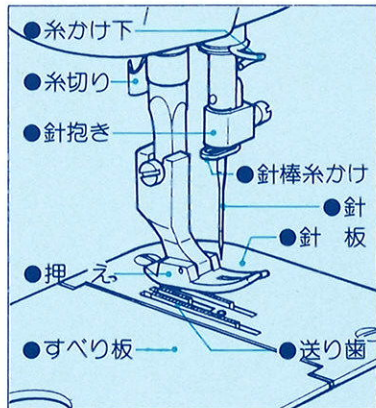
●押え圧力調節ねじ

●アーム糸かけ(上)

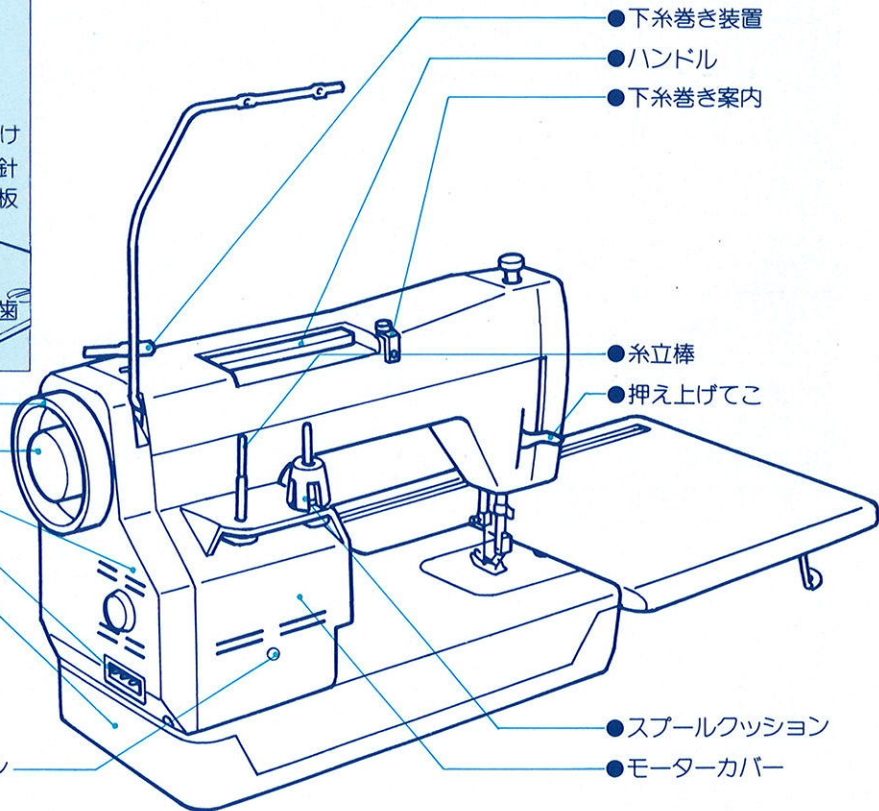
●上ふた

●ひざ上げレバー

- 糸通し穴
- 糸案内棒
- ボビン押え
- 送り調節ダイヤル
- 返しぬいレバー
- ドロップフィードつまみ

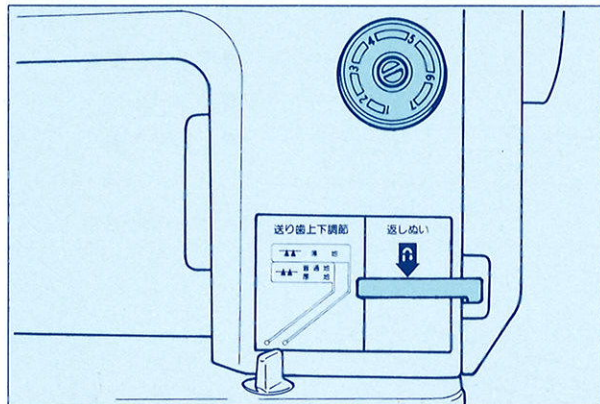


- プーリー
- ストップモーション大ねじ
- ベルトカバー
- 四極ソケット
- 底板



各部のはたらき

送り調節ダイヤルと返しぬいレバー



送り調節ダイヤル

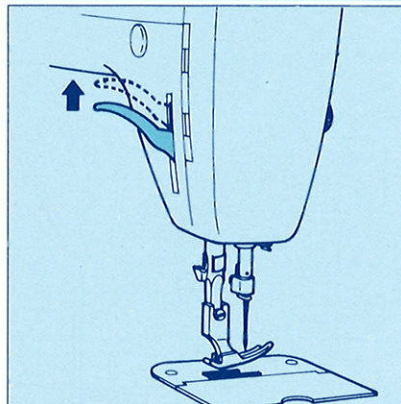
ぬい目の長さを調節することができます。

返しぬいレバー

下へ押さえている間だけは返しぬいができます。

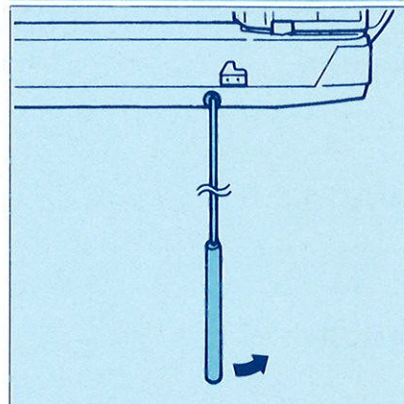
※いっぱい押し下げてください。

押え上げてこ

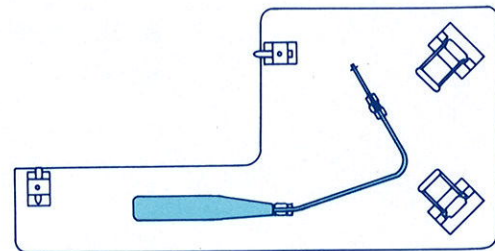


厚地の重ねぬいなど押えの下に布地が入れにくいときに、押え上げてこをもう1段上げると便利です。

ひざ上げレバー

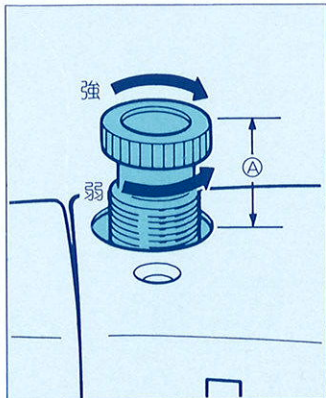


ぬい始め、ぬい途中に布地から手を離さず、ひざで押えを上げたり、下げたりすることができます。



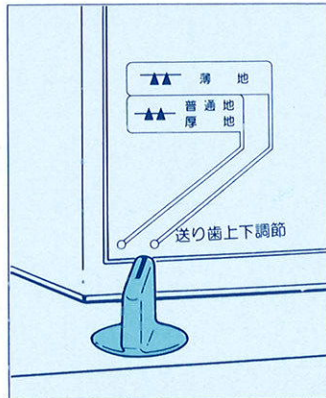
※格納は補助テーブルの裏側にできます。

押え圧力調節ねじ



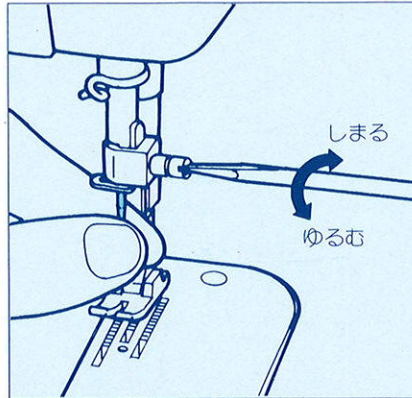
厚地は強く、薄地は弱くします。
 ※のびる布地(ジャージなど)の場
 合は少し弱めにしてください。
 ※一般的には、ブロード2枚でA
 の間隔が1.7cmが適当です。

ドロップフィードつまみ

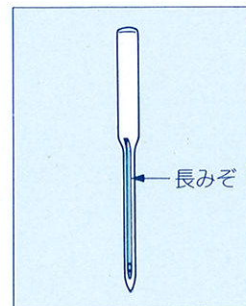


布地の厚さによってドロップフィ
 ードつまみを合わせます。

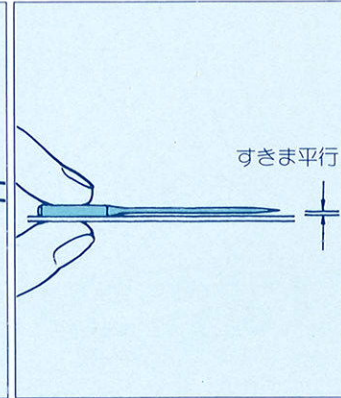
針を取り替えるには



- ① 押えを下げます。
- ② ねじ回して針抱き締めねじをゆるめ針を
はずします。
- ③ 新しい針の長みぞを左側にして、つかえ
るまで差し込みます。
- ④ 針抱き締めねじを締めます。

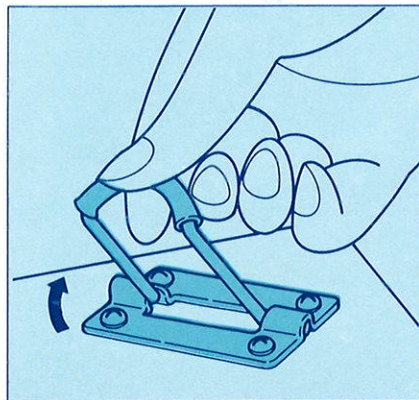


正しい針の調べ方

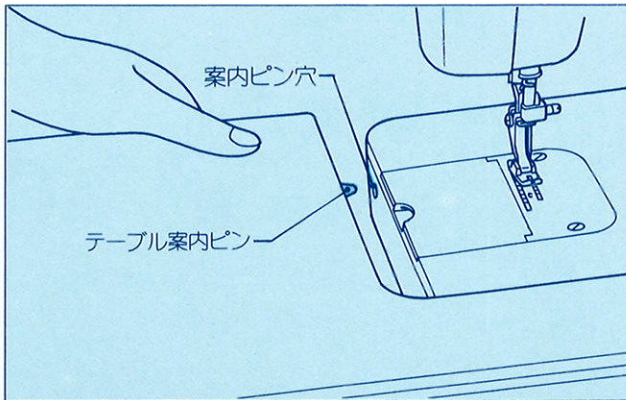


針の不良は、目とび・糸切れ・布
 地をいためる原因になりますので、
 とときどき点検をしてください。

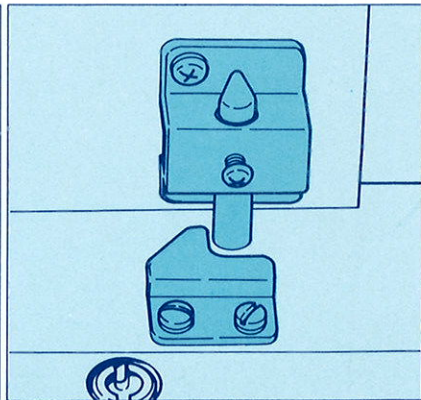
補助テーブルの取り付け方



①補助テーブルの足を起こします。



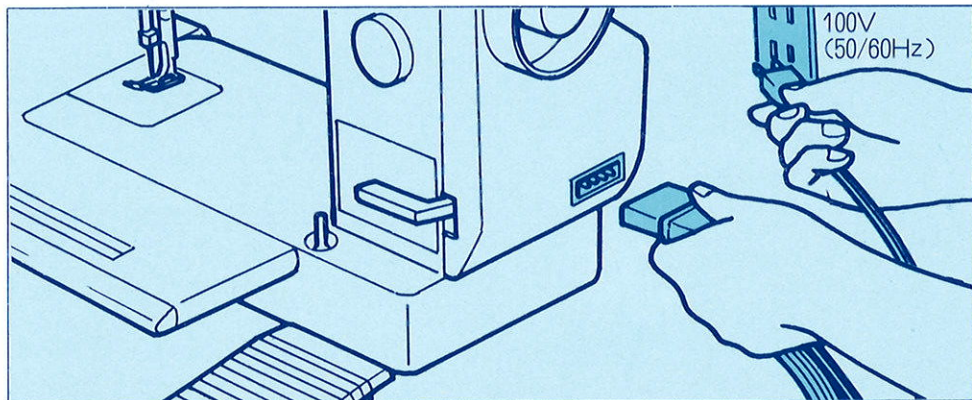
②補助テーブルを少し持ち上げ、テーブル案内ピンを案内ピン穴に入れます。



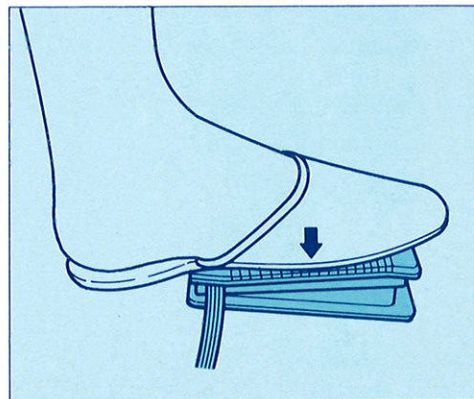
③テーブル案内軸にテーブル止め板の凸部をおろします。

※補助テーブルを取り外すときは、取り付けたときの反対の手順で行ってください。

運転の手順

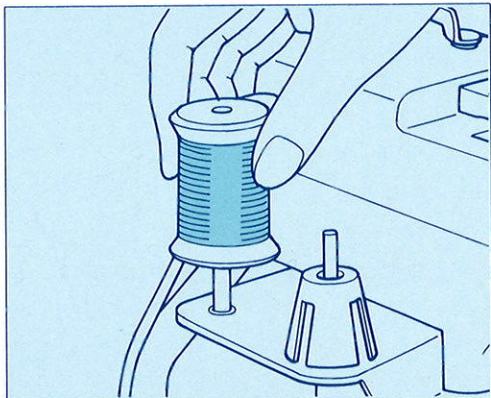


- ①電源コードをミシンとコンセント(100V 50/60Hz)に接続します。
※ミシンを使用しないときは必ずコンセントから抜いてください。



- ②コントローラーは強く踏むほど速くなります。
※最高ぬい速度は、毎分1,500針です。
※コントローラーの上にものをのせないでください。

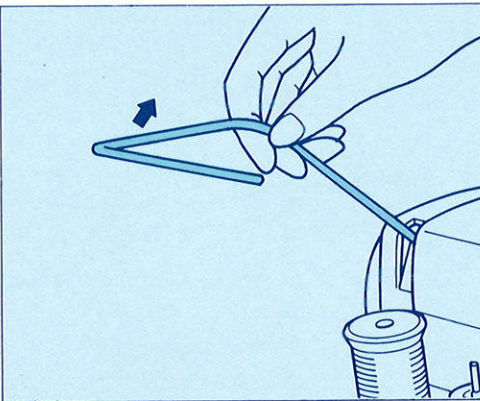
上糸の準備



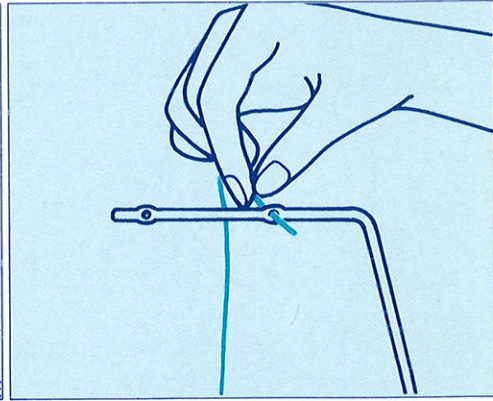
①糸立て棒に糸こまをのせます。

※糸こまの場合は、糸こまキャップを使用してください。

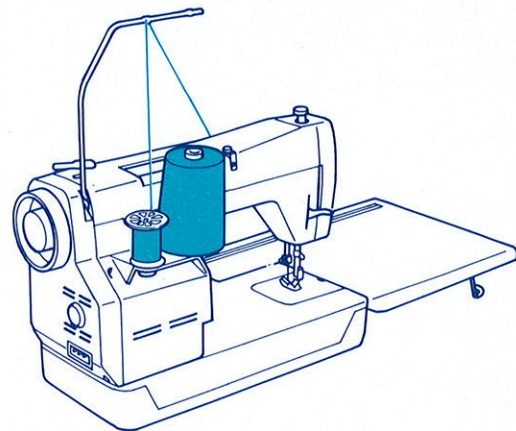
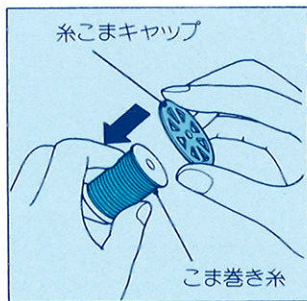
※チーズ巻き糸の場合は、スプールフックの上
にのせてください。



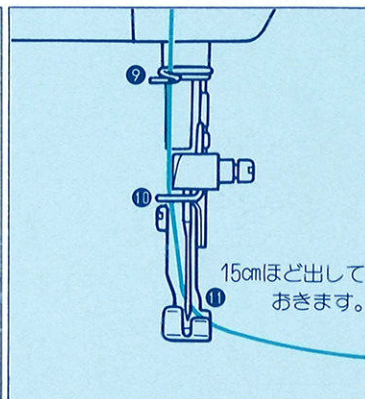
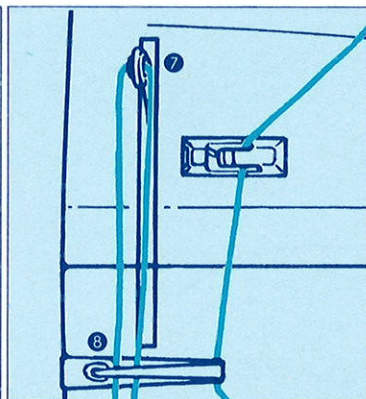
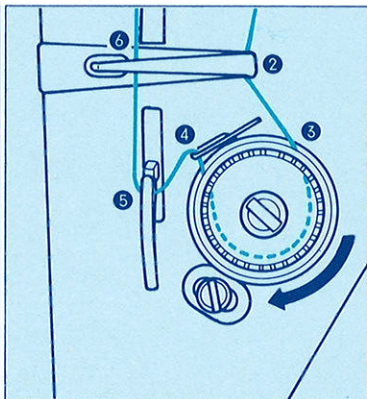
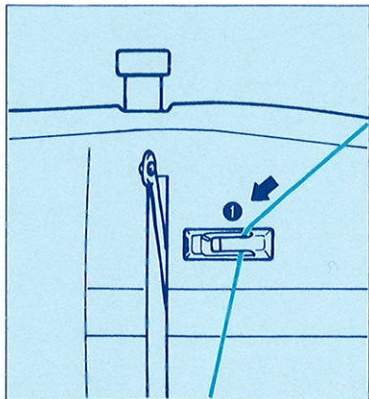
②糸案内棒を起こします。



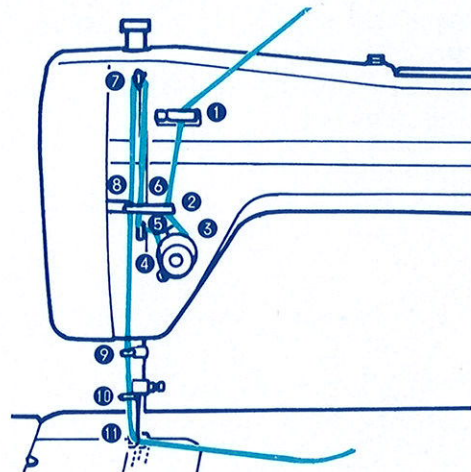
③糸を糸通し穴に通します。



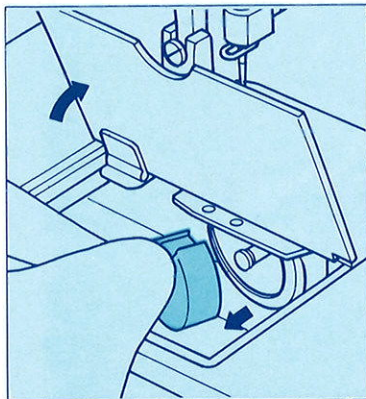
上糸のかけ方



天びんを最高の位置にします。



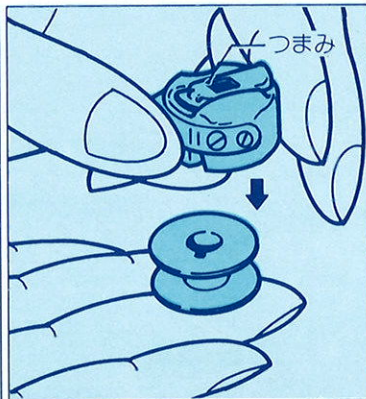
下糸の準備



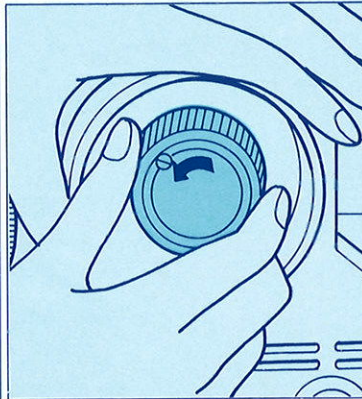
① 針を上げます。

② すべり板をはね上げます。

③ つまみを持ってボビンケースを取り出します。

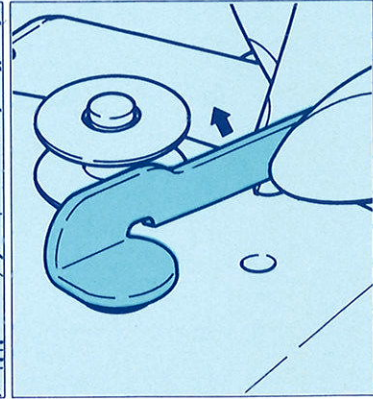


④ つまみを閉じてボビンを取り出します。

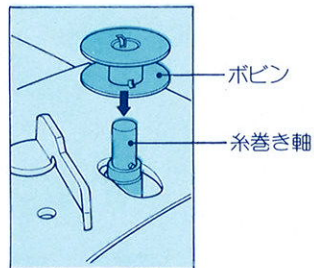


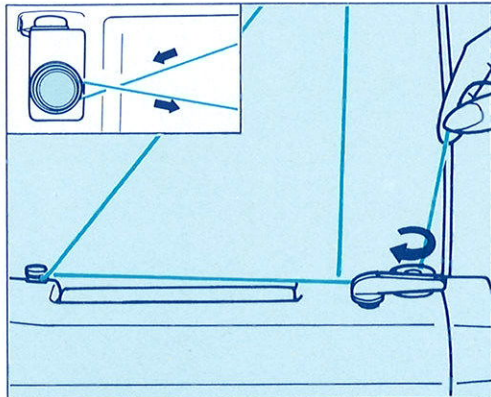
⑤ ストップモーション大ねじをゆるめます。

⑥ 糸巻き軸の凸部にボビンの凹部が合うようにはめ込みます。



⑦ ボビン押えをボビンのみぞに押し込みます。





⑧糸を引き出し、糸案内棒に通します。

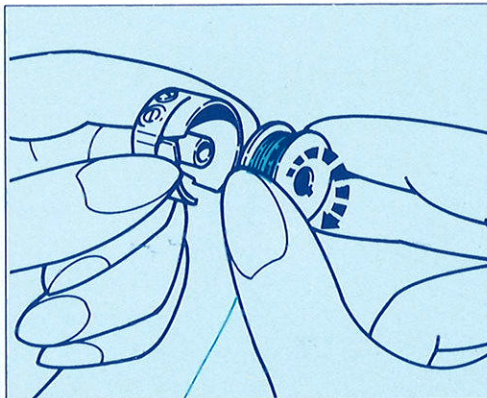
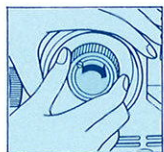
⑨下糸巻き案内皿の間にクロスさせて糸を通します。

⑩糸をボビンに3~4回巻きつけます。

⑪コントローラーを踏みます。

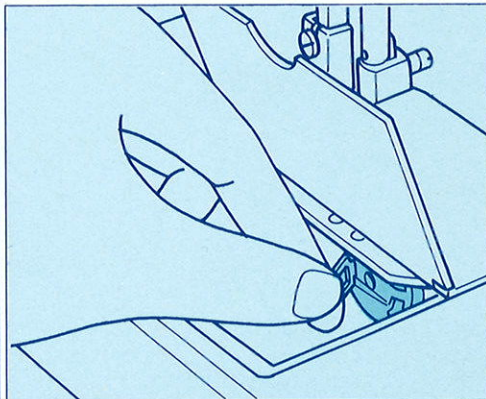
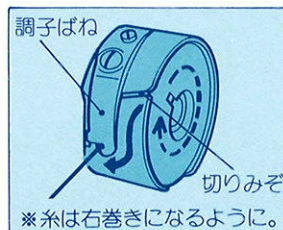
※巻き終わると、ボビン押えが自動的に離れて停止します。

⑫ストップモーション大ねじを締めます。



⑬つまみを閉じて、糸は右巻きになるようにし、ボビンをボビンケースに入れます。

⑭切りみぞに糸をすべり込ませ、調子ばねの下をくぐらせて、糸を10cmほど出しておきます。

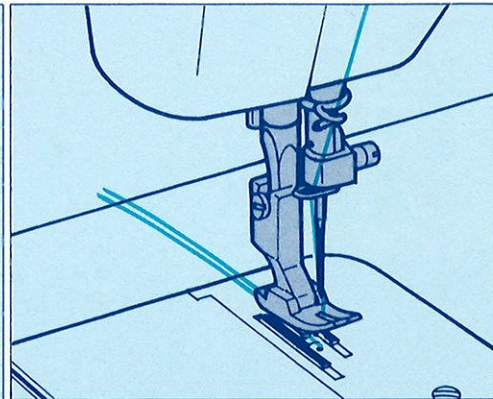
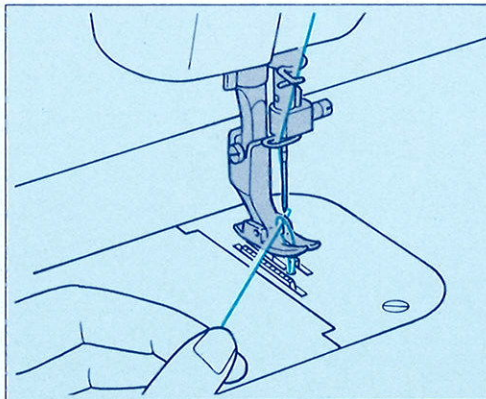
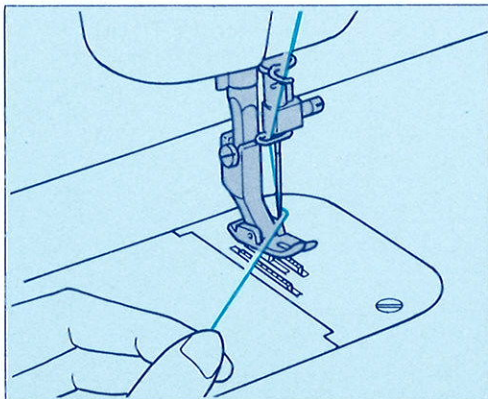


⑮つまみをいっぱい開いて、ボビンケースを軸に差し込みます。

※しっかりセットされていないと始動とともにボビンケースがとび出てきます。

⑯すべり板をもとにもどします。

下糸の引き上げ方



①上糸を軽く持ちます。

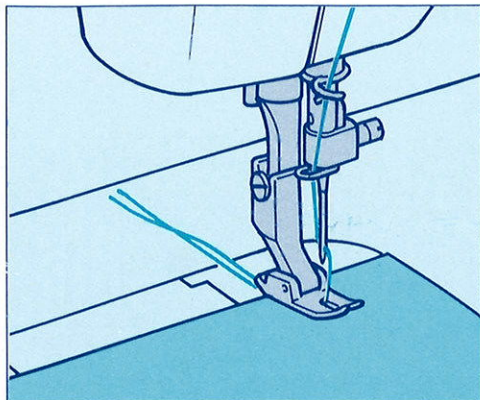
②プーリーをゆっくり一回転させます。

※糸を手前に軽く引き、糸がかかっているか確認してください。

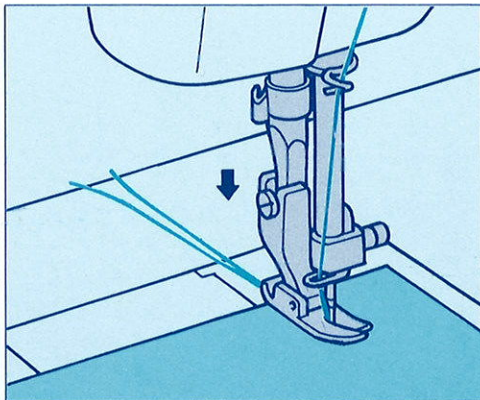
③上糸を引いて下糸を引き出します。

④上糸と下糸を15cmほど出しておきます。

ぬい始め



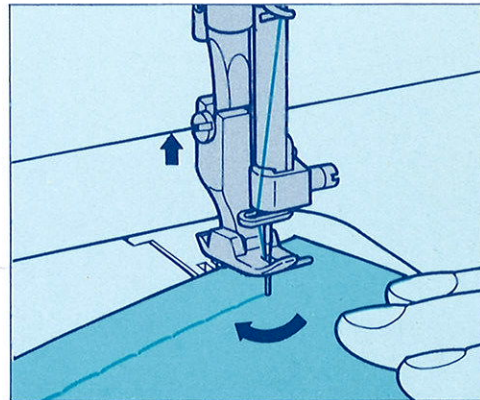
① 上糸と下糸を15cmほど出し、針を上げたまま布地を押えの下におきます。



② 押えを下げます。

③ 針を布地に刺してコントローラーをゆっくり踏み、スタートします。

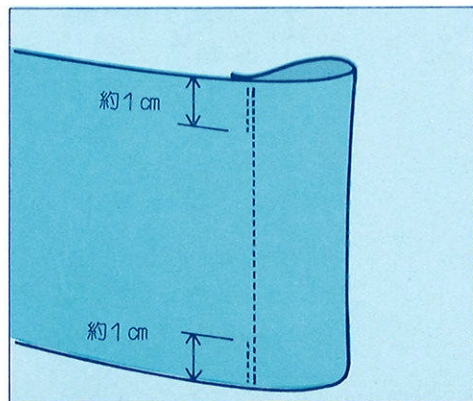
ぬい方向を変える場合



① 針を布地に刺しておきます。

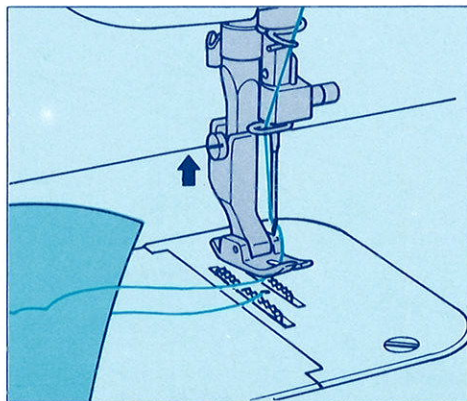
② 押えを上げ、針を軸に布地を回します。

止めぬい



約1cmの位置で返しぬいレバーを押し、ぬい目の上をぬい返します。




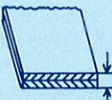
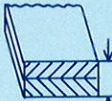
ぬい終わり



- ① 針を最高の位置に上げます。
- ② 押えを上げ、布地を引き出して糸を切ります。

● 布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

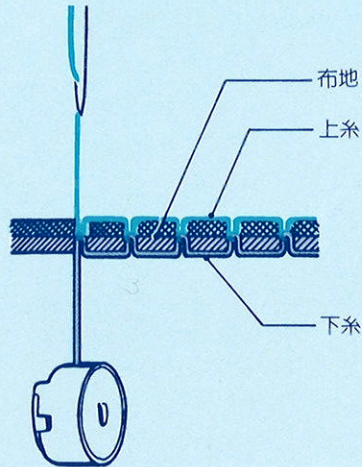
☆ この表はいろいろなぬい方すべてに関係します。

	布地・ミシン糸・ミシン針の関係		
	布 地	ミシン糸	ミシン針
薄地ぬい	 ローソ トリコット ジョーゼット (絹) ウール・ ジョーゼット	 カタン糸 80番 合繊糸 60番 絹糸 50番 絹糸 合繊糸 50番	 9番 11番
普通地ぬい	 キンガム 薄手 ジャージ ギャバジン、 フラノ	カタン糸 60番～80番 合繊糸 60番 絹糸 50番	11番～14番 11番
厚地ぬい	 テニム ジャージ ツィード	カタン糸 20～50番 合繊糸 20～50番 絹糸 20～50番	14番～18番 11番～16番

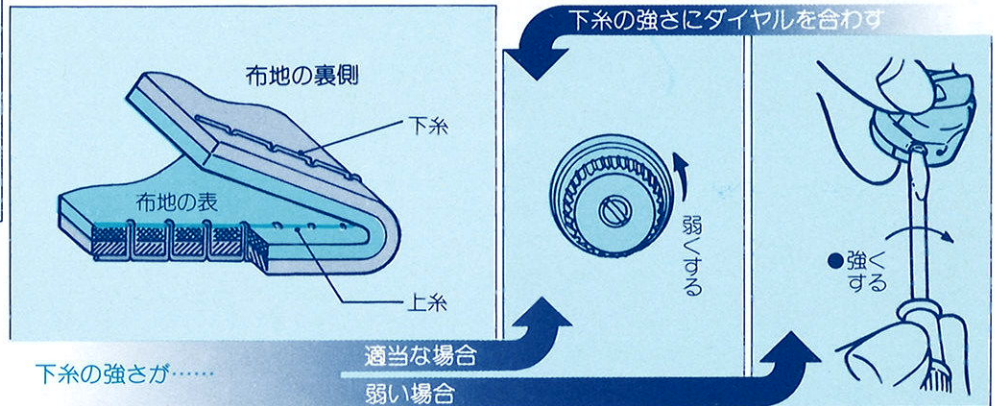
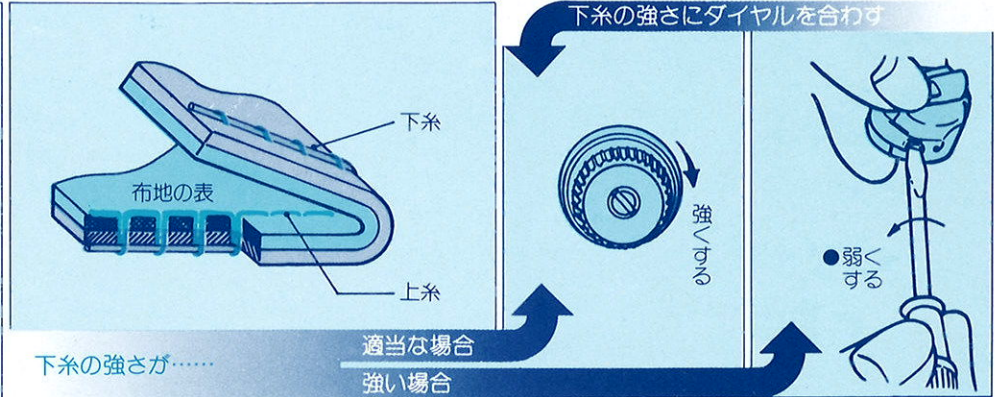
糸調子

※ボビンケースの糸調子は、下糸が引っかかりなくなめらかになる程度が適当です。下糸に合わせて上糸を調節してください。

正しい糸調子

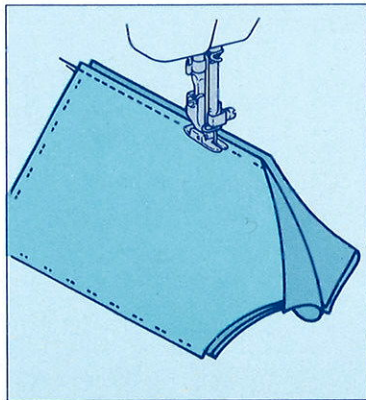


糸調子が正しく調節されていないとぬい目がきたなく、布地にしわがよったり糸が切れたりします。

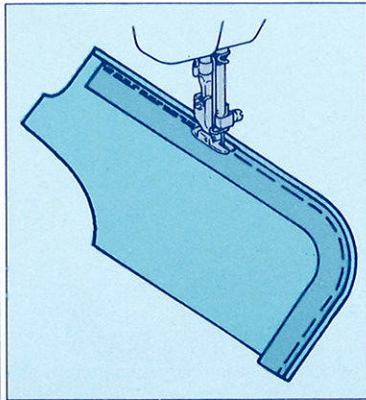


正しいぬい方

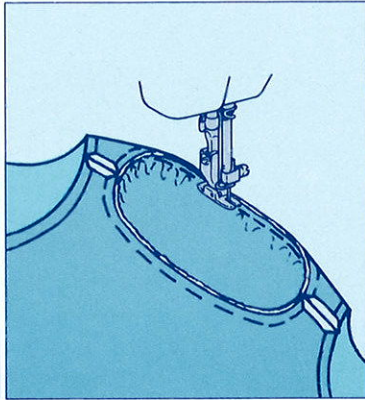
布地の置き方



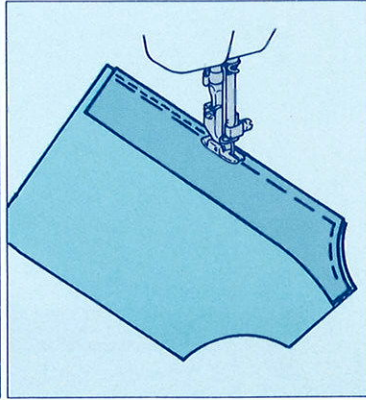
厚地と薄地をぬい合わせる場合は、薄地を上にしてぬいます。



たて地(よこ地)とパイアス布をぬい合わせる場合は、パイアス布を上にしてぬいます。

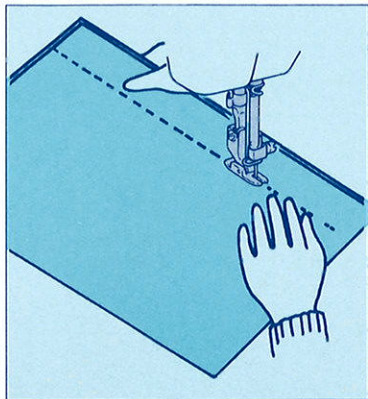


平らなものといせこみをしたものをぬい合わせる場合は、いせこみ側を上にしてぬいます。

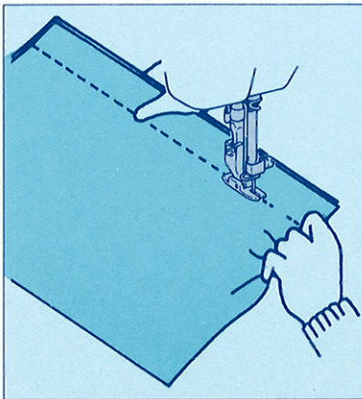


大きなものと小さなものをぬい合わせる場合は、小さなものを上にしてぬいます。

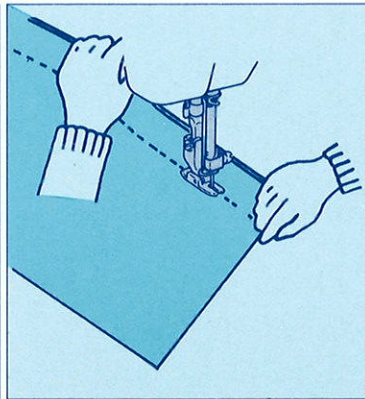
手の置き方



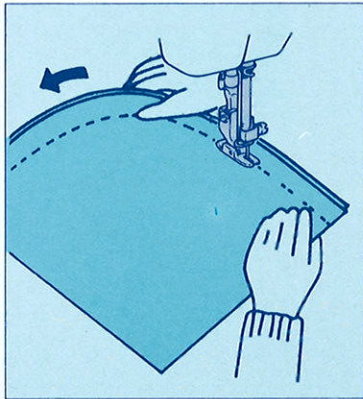
普通地の場合は、左手で布地を軽く押さえて右手で布送りを助けます。



ずれやすい布地・ほつれやすい布地の場合は、両手でしっかり布地をつかみ、前後の手の間隔を一定にして、一区切りずつ布地を送ります。



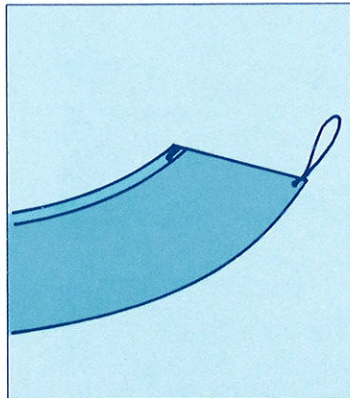
逆手の場合は、左手を前にして右手で布地を押さえながらぬいます。



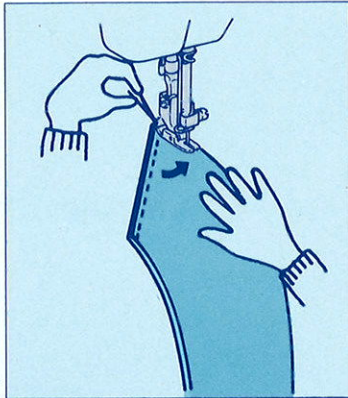
曲線ぬいの場合は、カーブにそって回すようにぬいます。

ぬいにくい布地(ところ)のぬい方

えりステッチの場合

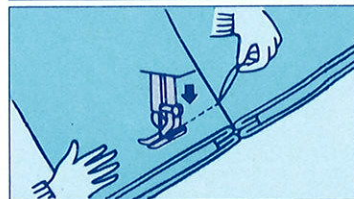
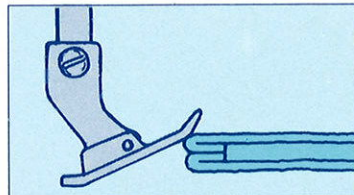


① 5~6cmほどえり先に糸を付けておきます。



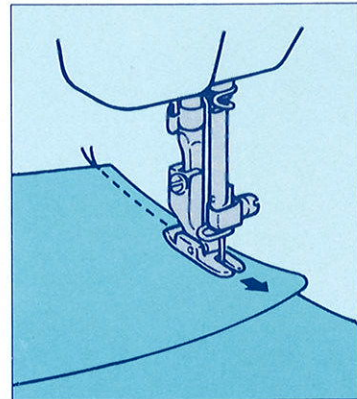
② えりの先が針穴に入らないように、糸を引っ張りながらぬい出します。

布地が厚くてぬい出しが悪い場合



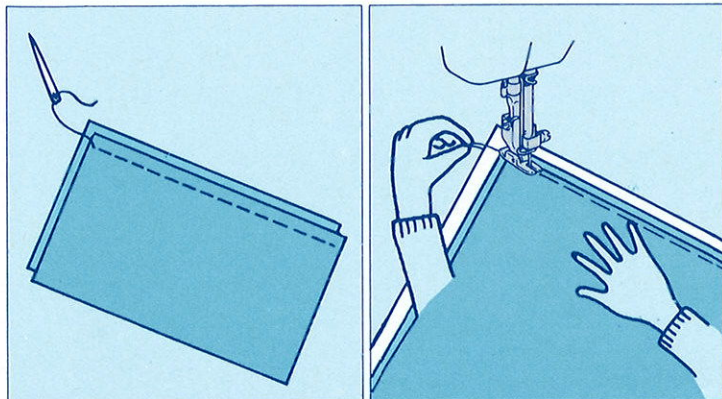
同じ厚さの布地を置き、上糸と下糸を少し引っ張って右手で布地を押し出すようにぬい出します。

段差をぬう場合



図の方向にぬっていきます。

特に薄い布地の場合

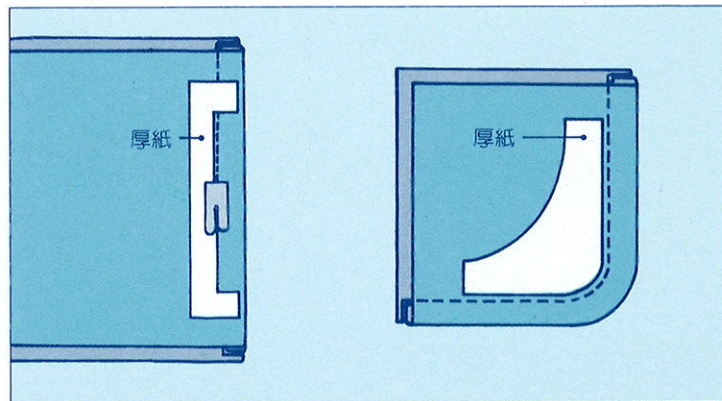


①しつけをします。

※薄物用針板に取り替えます。
(取り替えは31ページ参照)

②布地の下に薄い紙を置いていっしょにぬっていきます。

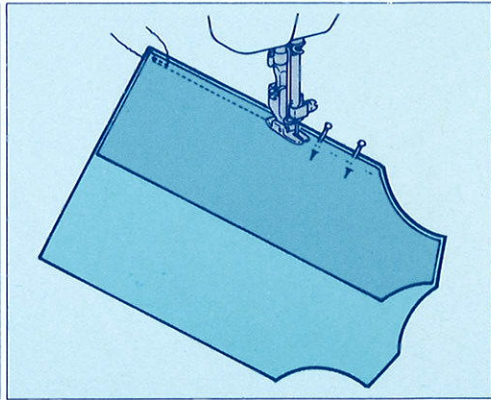
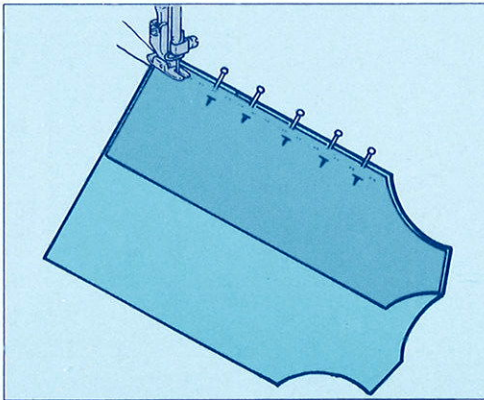
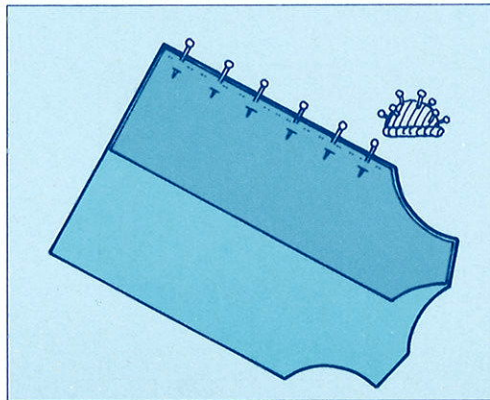
ステッチ幅が広い場合



厚紙を使ってぬいます。

※ステッチ幅がそろい、布地のずれも防ぎます。

直線ぬい

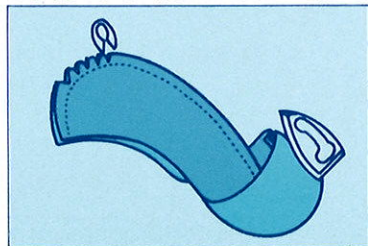


①まち針は、針の頭がぬいしろ側にくるように直角にうちます。

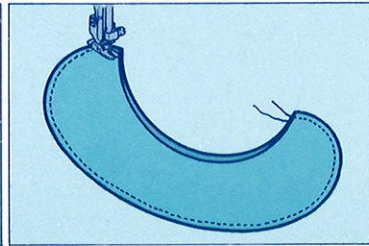
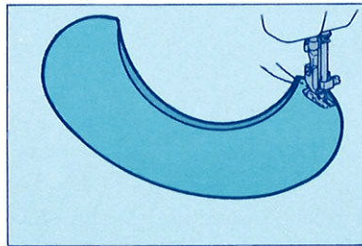
②上糸と下糸を15cmほど出し布地を置きます。
※返しぬいの分だけ、スタート点より手前に置いてください。

③3~4針返しぬいをして、スタートします。

●ステッチ幅がせまい場合

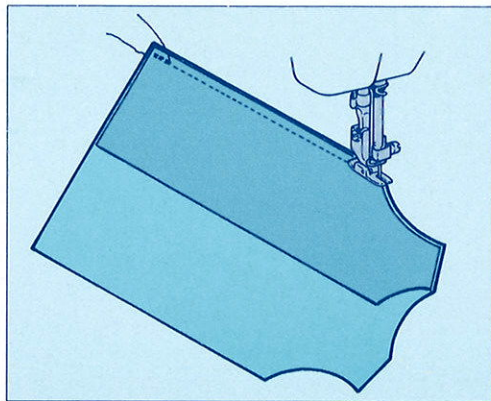


①布地を中表にして、しるし通りにぬい、ぬいしろを細く切りそろえます。
※カーブのところには切り込みを入れておいてください。
※布地を表に返して、折り山にアイロンをかけてください。

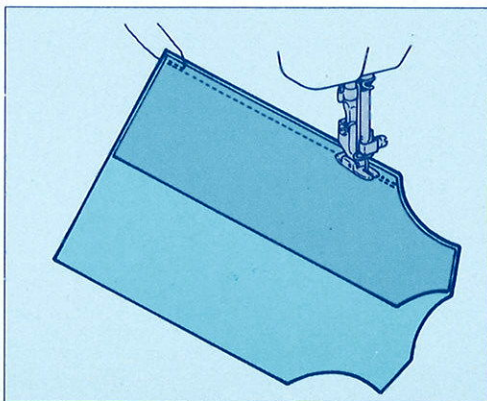


②針おち位置を確かめてスタートします。

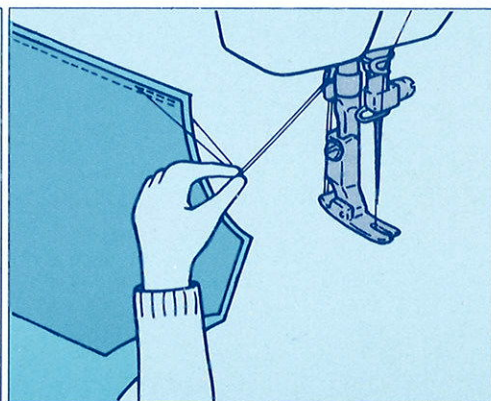
③ぬい始めと終わりの糸は、内側で結びます。



④ぬい終わりに近づいたら、スピードをおとしてストップします。

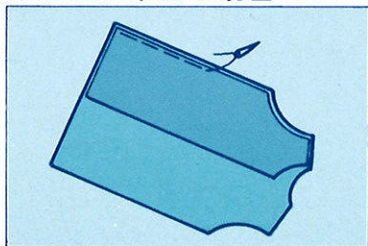


⑤ぬい始めと同じように、3~4針返しぬいをします。

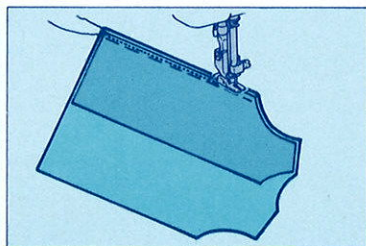


⑥押えを上げて、布地を引き出し糸を切ります。
※ぬい目にアイロンをかけて仕上げてください。

●のびる布地の場合



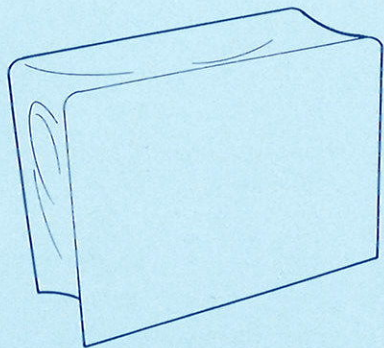
①布地がのびやすいので、しつけをしておきます。



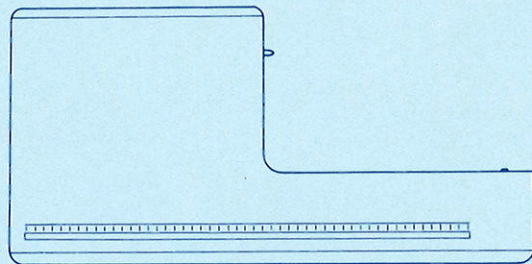
②右手で布地を軽く送り出すようにスタートし、しつけのきわをぬっていきます。

※布地がのびやすいので、引っ張らないよう注意してください。

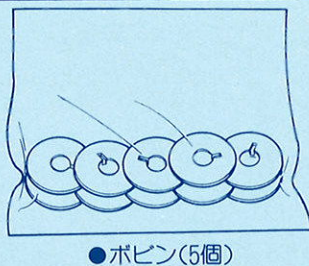
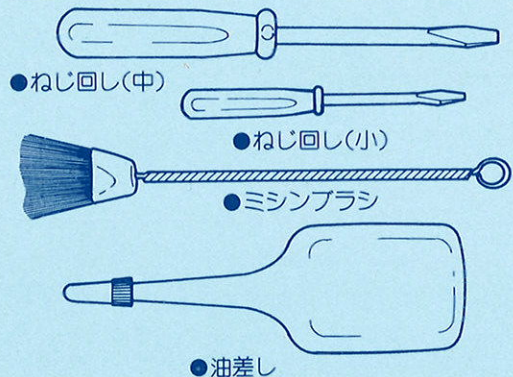
付属品



●頭部カバー



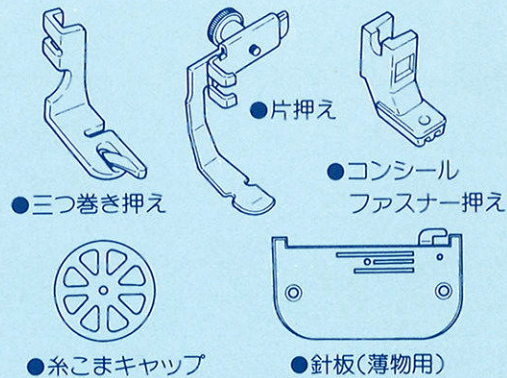
●補助テーブル



●ポビン(5個)

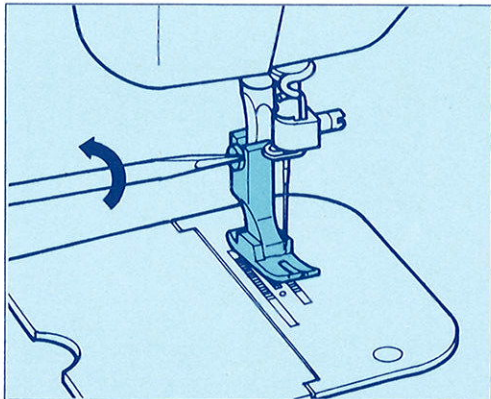


●ミシン針(DB×1)
9-2本
11-2本
14-1本

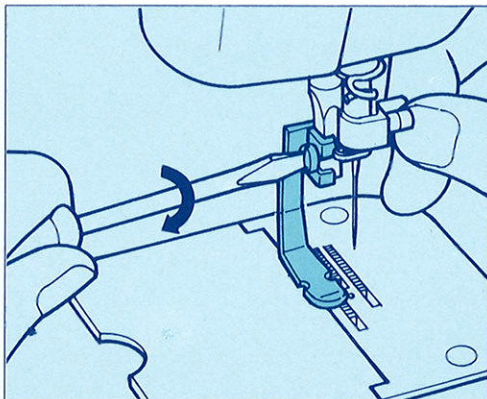


付属品の使い方

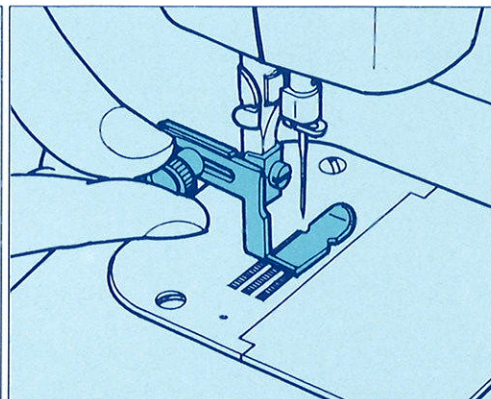
押えを取り替えるには



- ① 押えを上げて針を最高位置にします。
- ② 押え締めねじをゆるめて取りはずします。

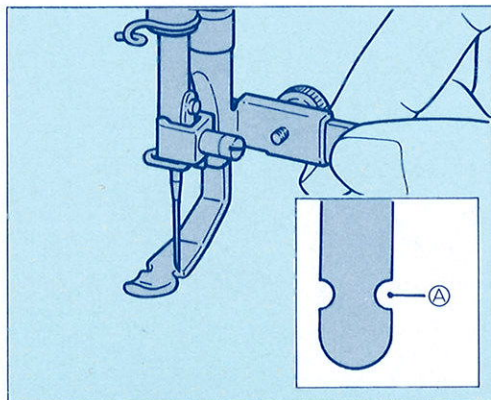


- ③ 片押えを取り付け、ねじを締めます。
- ※ 三つ巻き押えも同様に行ってください。



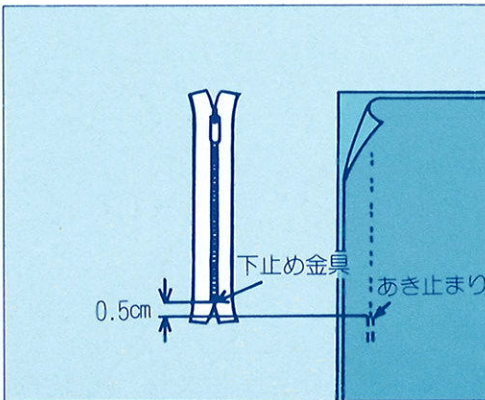
- 片押えの位置は調節ねじで変えることができます。

片押えを使って(ファスナー付け)

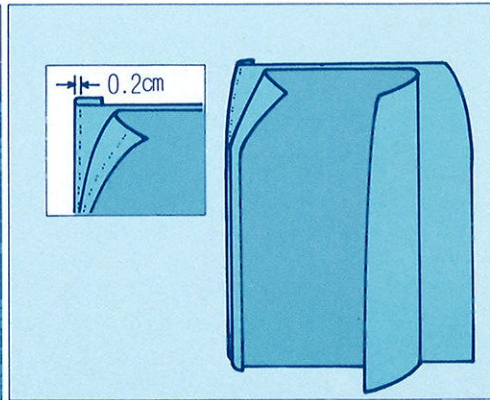


①片押えに付け替えます。

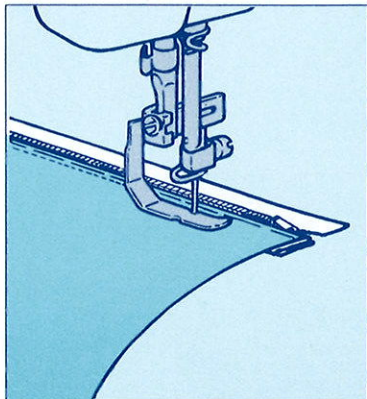
②プーリーを回して針をおとし、押えの位置を決めます。



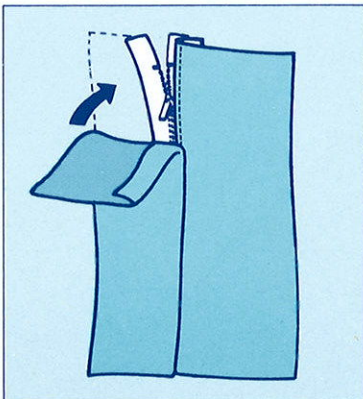
③ファスナー付けの部分にファスナーを当て、下止め金具より0.5cm下がった位置にあき止まりのしるしを付けます。



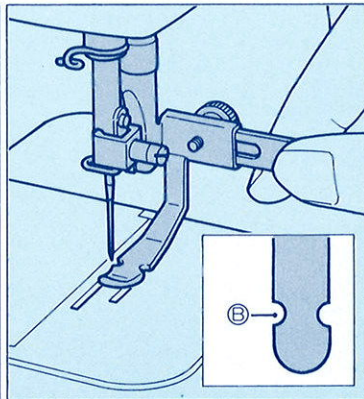
④しるしから0.2cm外側を折って、きわにしるしを付け、ぬいしろを割ります。



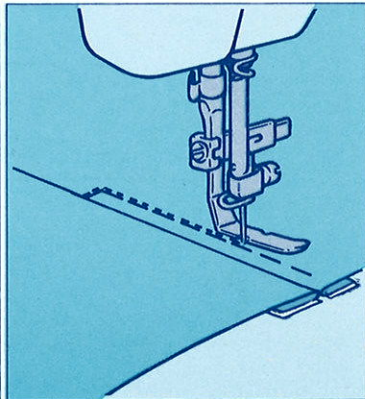
⑤しるしのところをぬい、ファスナーを付けます。



⑥ぬい目と折り山を合わせます。



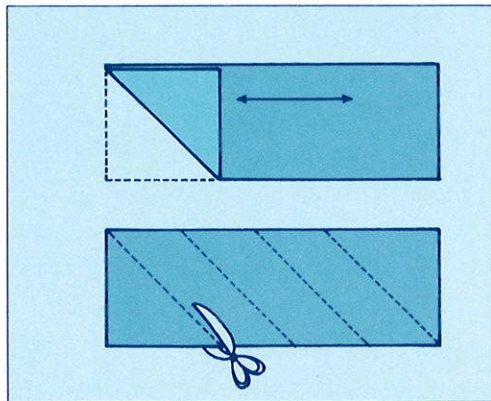
⑦押えの位置を替えます。
プーリーを回して針をおとしてみて、
押えの位置を決めます。



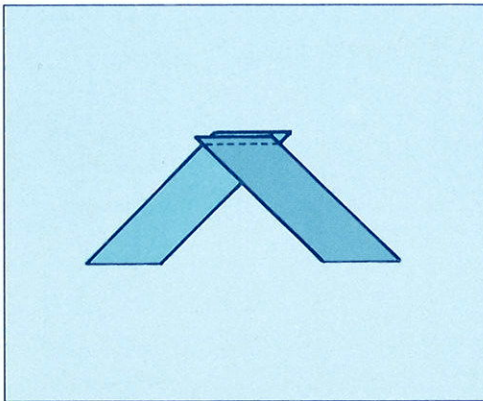
⑧布地を表に返して、しつけをし、
きわをぬいます。
※あき止まりは、二度ぬいしてください。

片押えを使って(おとしミシン)

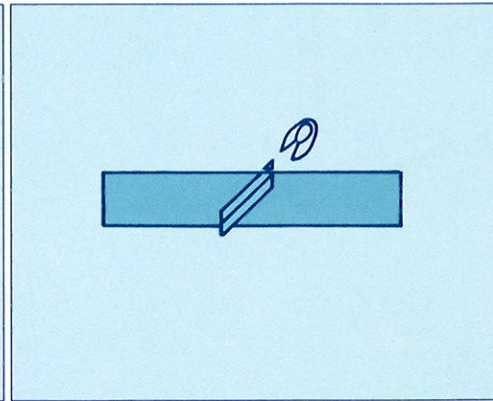
●バイアス布を使う場合



①布地を折りたたみ正バイアスを作ります。

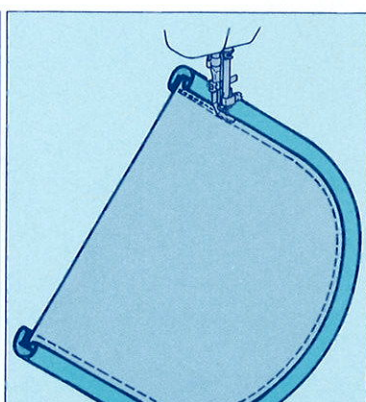
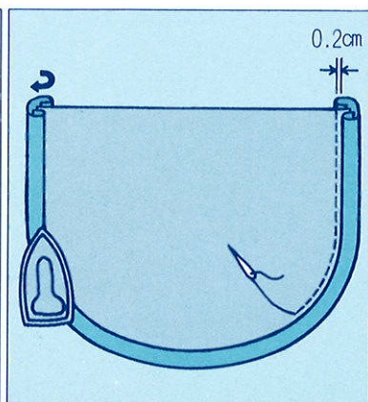
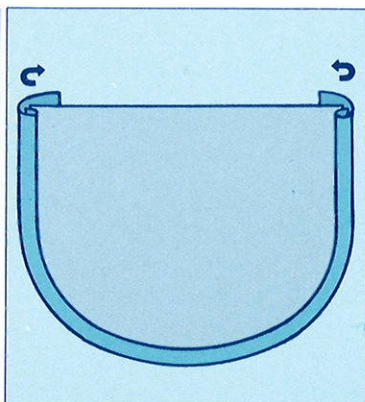
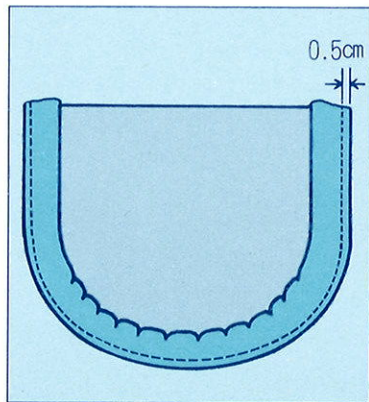


②二枚のバイアス布を中表にぬい合わせます。



③はみ出したぬいしろを切ります。

※必要な長さだけバイアス布をつなぎ合わせてください。

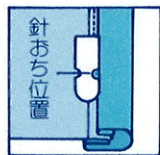


④カーブのところは、バイアス布をたるませ気味にし、玉縁幅(0.5cm)のぬいしろでミシンをかけます。

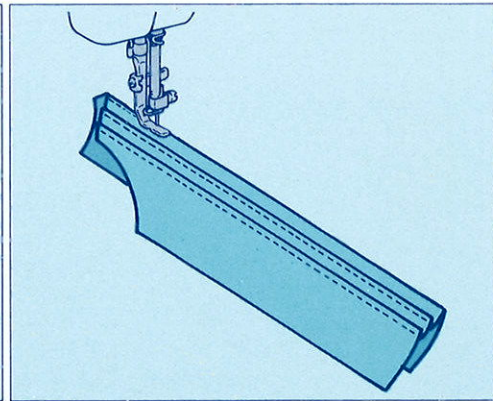
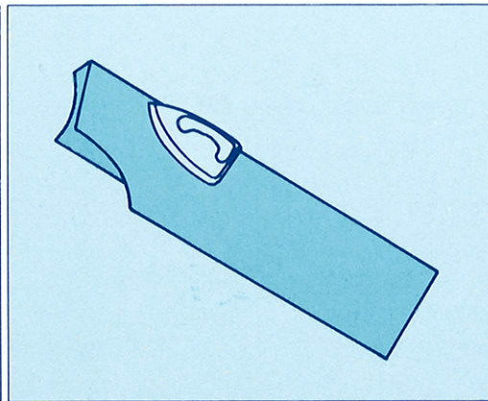
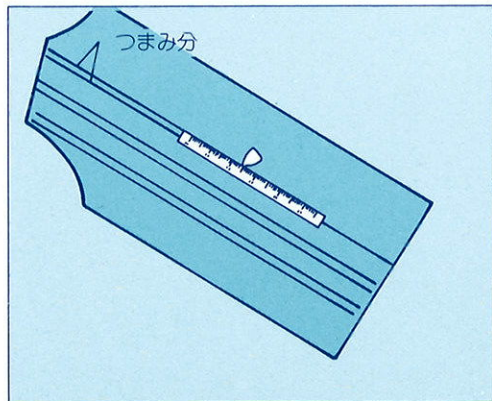
⑤バイアス布を裏側に折ります。

⑥0.2cm幅広く折り、アイロンをかけてしつけをします。

⑦バイアス布のきわをぬいます。



片押えを使って(ピンタック)

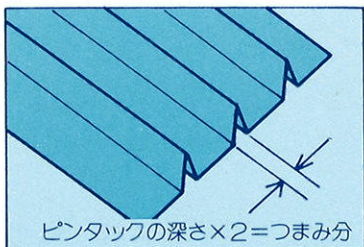


①チャコでしるしを付けます。

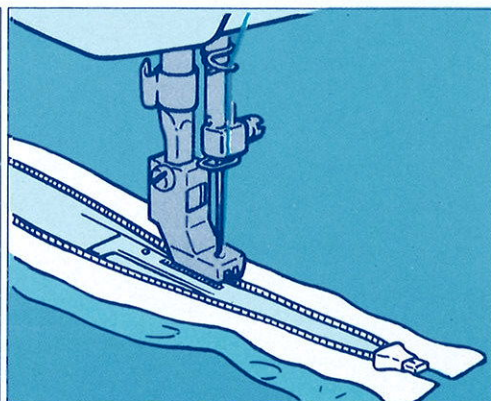
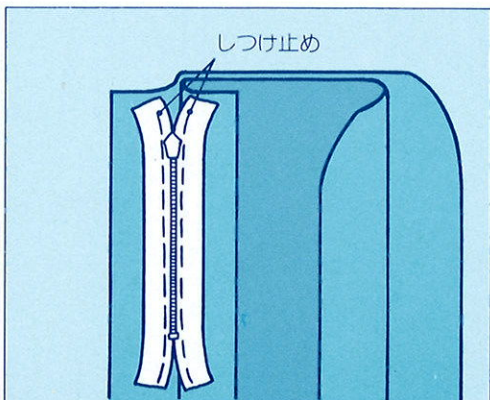
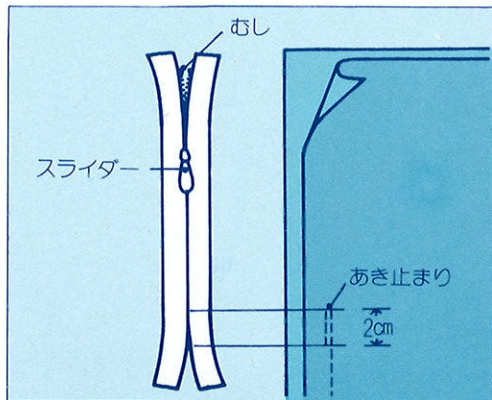
②しるしのところを折ってアイロンをかけます。

③しるしに沿ってぬいます。

※アイロンがけとミシンぬいをくり返して仕上げて
ください。

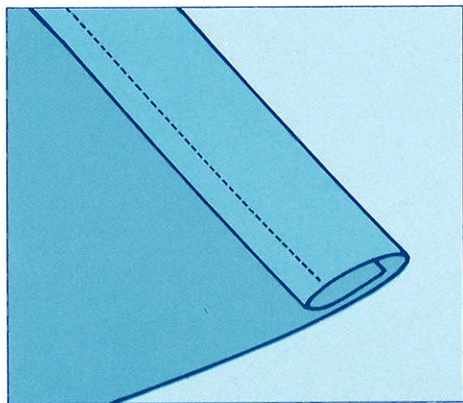


コンシールファスナー押えを使って(コンシールファスナー付け)



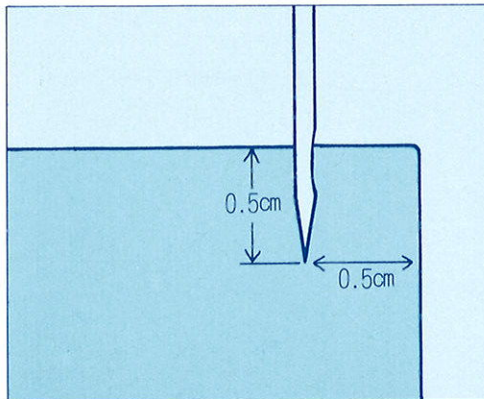
- ① コンシールファスナー押えに付け替えます。
- ② ファスナー付けの部分にファスナーを当て、ファスナーの長さより2~3cm短い位置にあき止まりのしるしを付けます。
- ③ ぬいしろを割ります。
- ④ 裏側へファスナーを当て、表布とのつり合いに注意してファスナーを開き、裏側のむしのそばをしつけで止めます。
- ⑤ ファスナーの裏側からむしを立ててぬいます。
※ むしの右側をぬうときは、押えの左側のみぞと右側のむしを合わせます。

三つ巻き押えを使って(三つ巻きぬい)

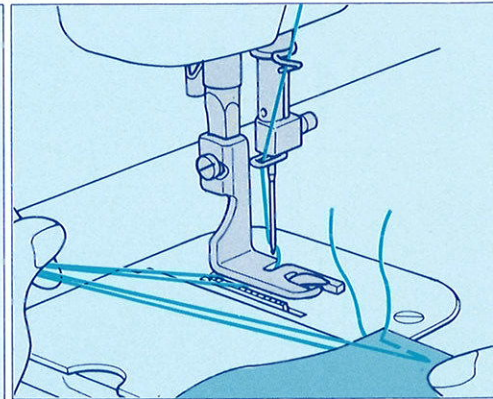


布端を三つ折りに仕上げながらぬい上げるのに使います。

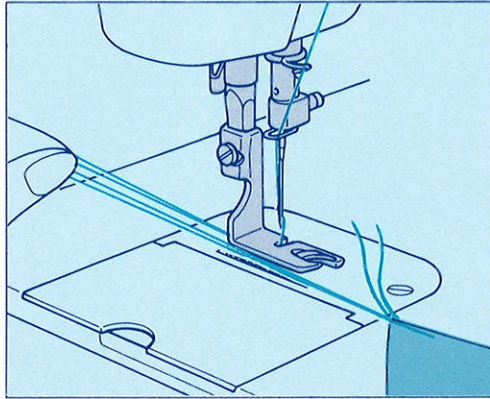
※ワイシャツのすそ・エプロンなどのフリルの端、主に布端のしまつに用います。



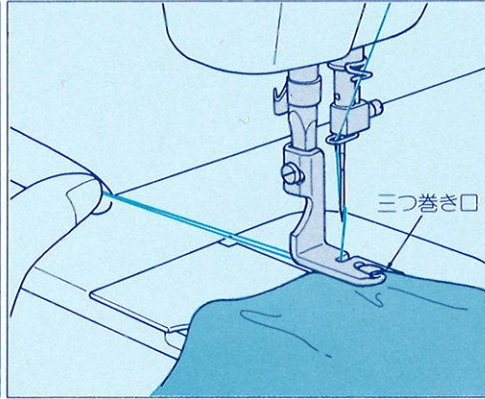
- ① 三つ巻き押えに付け替えます。
- ② 布端から約0.5cm入ったところに針をおとし、2針ぬいます。



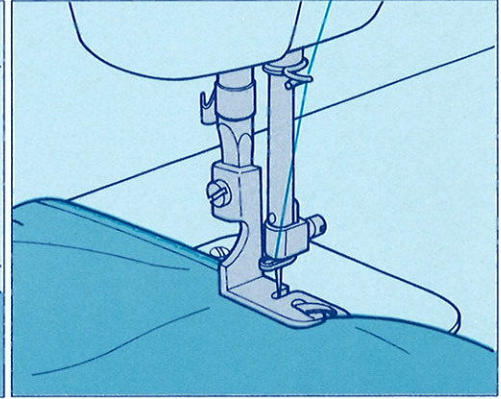
- ③ 針を上げ布地を手前に引きます。



④左手で4本の引き糸を持ちます。



⑤右手で布端を持って三つ巻き口に引き糸部分から差し入れ、針おちの向こうまで布地の端を入れます。



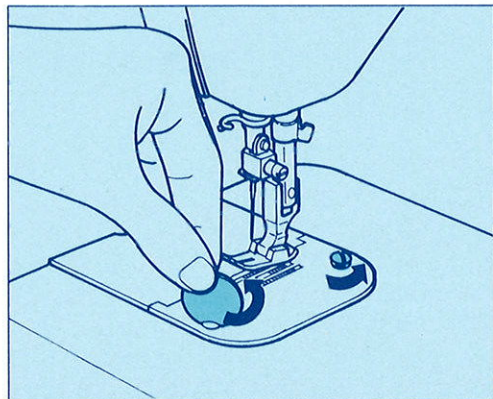
⑥始めの3~4針はこの引き糸を向こう側へ引っ張りぎみにすると簡単にぬうことができます。

⑦巻き込み幅を0.5cmほどかぶせるようにして布地を持ちます。巻き込み幅を適度に加減しながらぬいます。

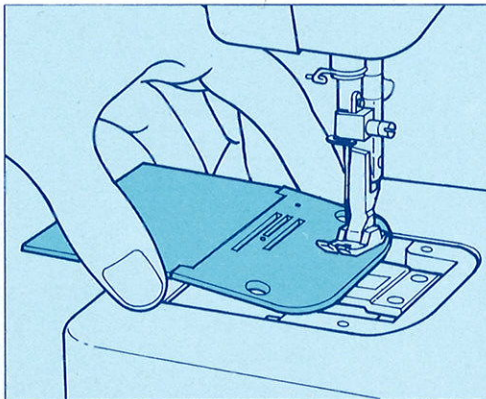
針板の取り替え

トリコット・ジョーゼット・ローンなどの薄地をぬう場合、針板針穴の小さい方を使うとぬい縮みが少なく美しく仕上がります。

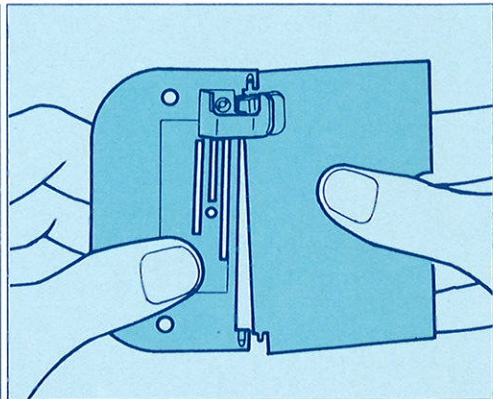
※針は14番以下のものをお使いください。



- ① 針と押えを上げます。
- ② 針板皿ねじをゆるめてはずします。

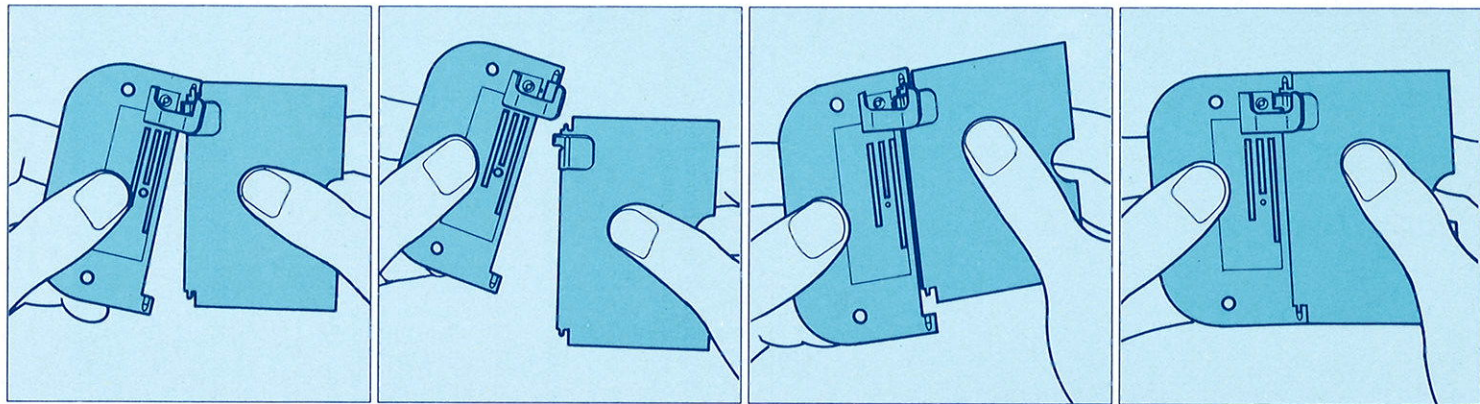


- ③ 持ち上げながら引っ張り出します。



- ④ みぞからピンをはずします。

薄物用針板を取り付けます。



⑤ すべり板を下に押し下げます。

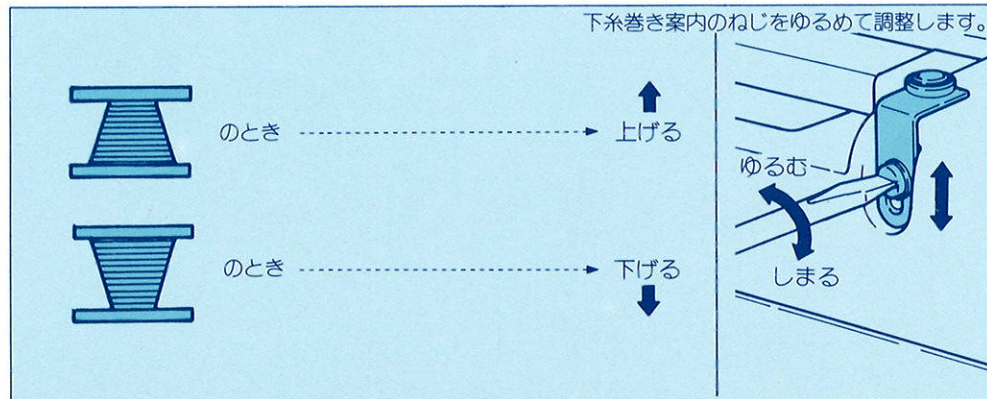
⑥ みぞからピンをはずし、針板とすべり板を分けます。

⑦ ストッパーを針板ばねの下にくぐらせながらみぞにピンを入れ、取り付けます。

⑧ 下のピンをみぞに入れます。

簡単な調整

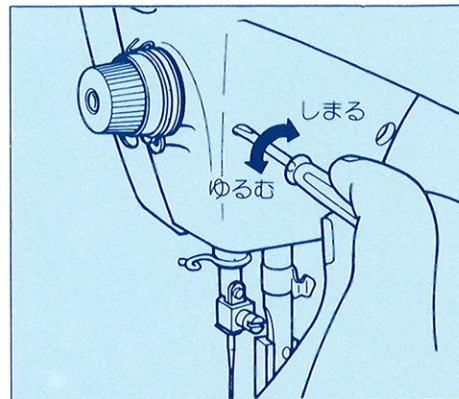
● 下糸巻き案内の調整



ポビンに糸が平均に巻かれないときは、
下糸の糸調子が悪くなる原因になります。



● 糸取りばねの調整

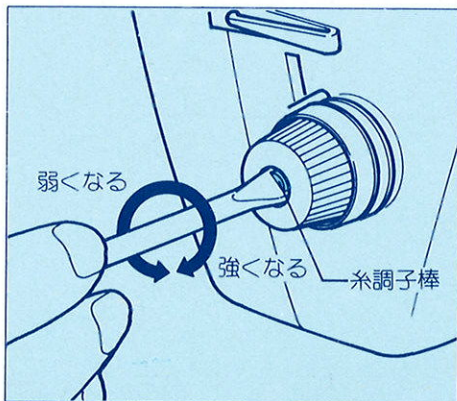


糸取りばねが強いとき……上糸切れが発生しやすい。

糸取りばねが弱いとき……かまに糸がくい込みやすい。

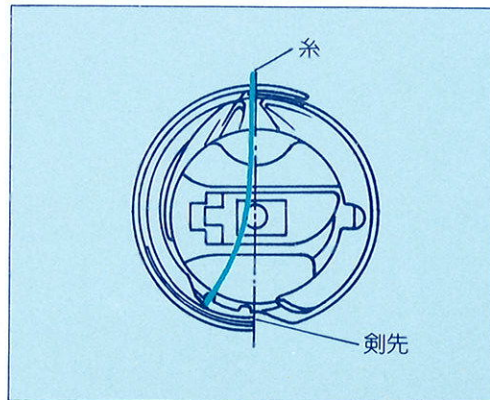
① 止めねじをゆるめてください。

●糸取りばねの運動量の調整

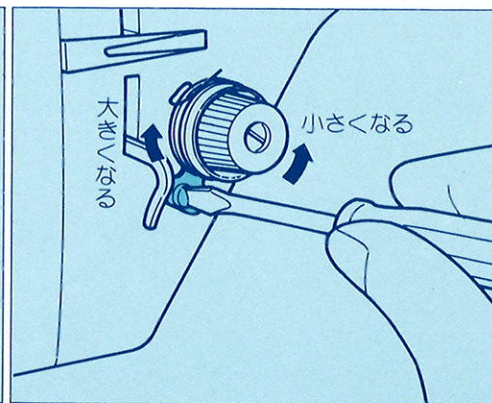


②糸調子棒で糸取りばねを調整します。

③調整後止めねじを締めつけます。



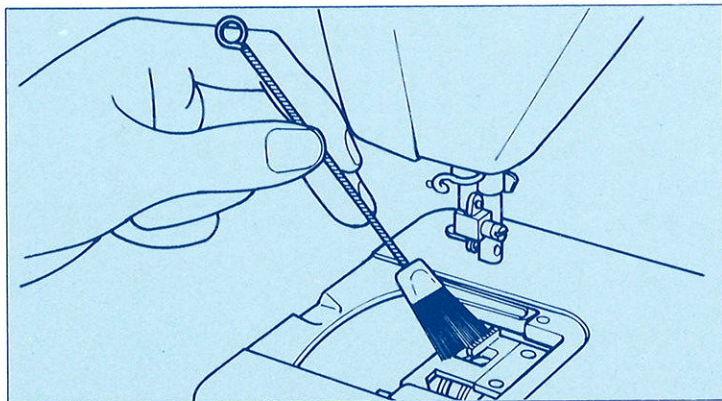
糸取りばねの運動量が正しいと、かまの剣先が糸をかけてほぼ真下に来たとき糸取りばねがはたらき始めます。



運動量が大きすぎると上糸切れが発生しやすく、小さすぎるとかまに糸がくい込みやすくなります。

ミシンの手入れと注油

● 送り歯とかまの掃除



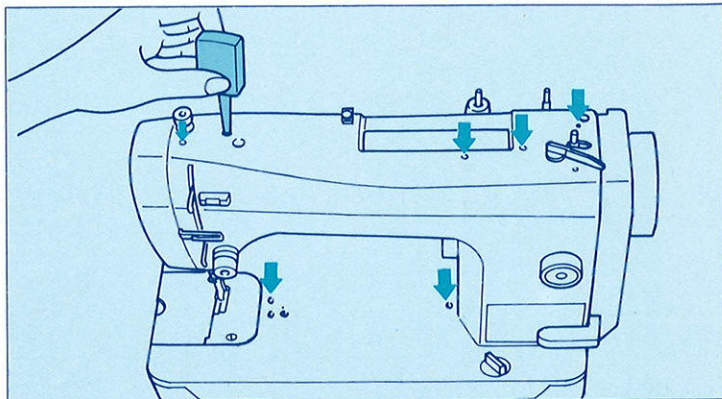
① 針・押え・針板を取りはずします。

② 付属のミシンブラシで糸くず・布くずで汚れた送り歯とかま周辺の掃除をしてください。

(注意)

かま周辺の掃除のときには、かま部へ1～2滴注油してください。注油後は少し試しぬいをしてください。

● 注油



※ 矢印の箇所に2～3滴注油してください。

注油箇所付近に付着した油は布できれいにふき取ってください。

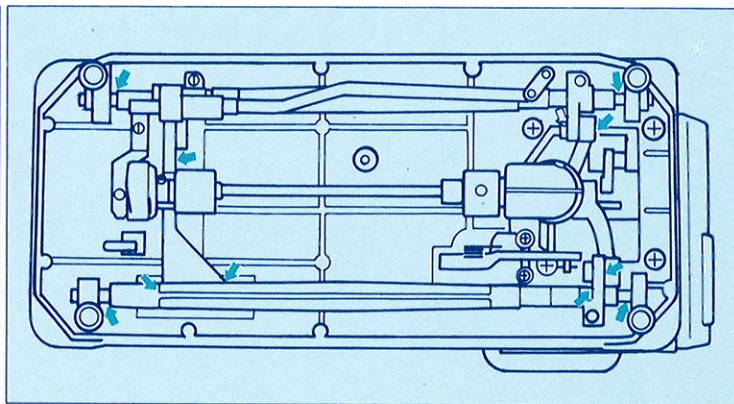
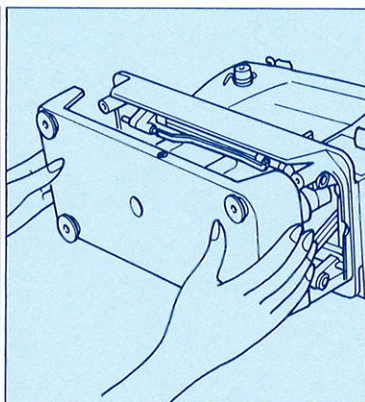
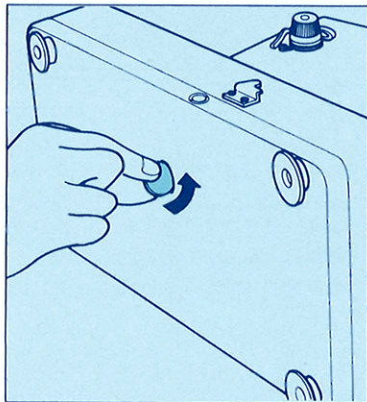
※ 注油は付属のミシン油をご使用ください。

※ 1カ月に一度くらい注油してください。

(毎日数時間ご使用の場合は、1日に1回注油してください)

※ 注油はミシンの使用後に行い、必ず空回転をしてください。

●底板のはずし方




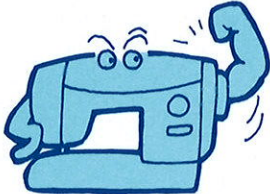
- ① ミシンを横に倒して中央の締めねじ
をはずします。
- ② 底板を取りはずします。

※ 矢印の箇所に注油してください。

調子よくぬえない原因と調整の仕方

このミシンは、むずかしい専門的な調整をしないですむよう設計されています。

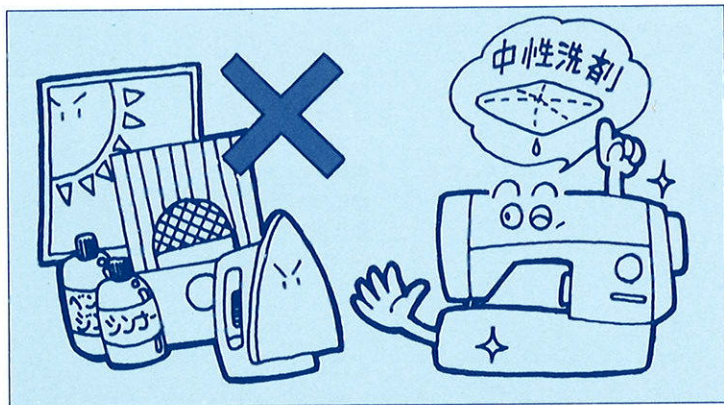
つぎのような場合は基本的な調整ができないときに起こりやすい故障ですからよく覚えておいてください。

	1.布地を送らない	2.針が折れる	3.上糸が切れる
原因 	<ul style="list-style-type: none">①押えの圧力が弱すぎる場合②厚地で送り歯が低い場合	<ul style="list-style-type: none">①針が曲がっていたり、針先がつぶれている場合②針の取り付けが悪い場合③布地を引っ張った場合④ミシン針・ミシン糸・布地の関係が悪い場合	<ul style="list-style-type: none">①糸の通し方が間違っている場合②糸が必要以上のところからみあっている場合③糸調子が強すぎる場合④針の取り付けが悪い場合⑤悪い針を使用した場合⑥針穴より太い糸を使用した場合⑦かまにきずができた場合
調整の仕方 	<ul style="list-style-type: none">①押え圧力調節ねじを右へ回し押え圧力を強くします。4ページをご覧ください。②ドロップフィードつまみで送り歯の高さを直してください。2ページをご覧ください。	<ul style="list-style-type: none">①正しいミシン針と取り替えます。4ページをご覧ください。②正しく取り付けます。4ページをご覧ください。③ぬいながら布地を強く押さえたり引っ張らないでください。④布地に対して適当なミシン糸、ミシン針を選んでください。13ページをご覧ください。	<ul style="list-style-type: none">①正しく通し直してください。8ページをご覧ください。②糸立棒、糸かけなどに引っかかっていないか確認してください。③14ページをご覧ください。④4ページをご覧ください。⑤4ページをご覧ください。⑥13ページをご覧ください。⑦小さなきずのとき→ペーパー(#800)でみがいてください。 大きいきずのとき→お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

4. 下糸が切れる	5. 目とびがする	6. ぬい目の調子が悪い	7. ぬい物にしわがよる
<ul style="list-style-type: none"> ① ボピンケースに糸の通し方が間違っている場合 ② ボピンケースの調子ばねを強く締めすぎた場合 ③ かまにきずができた場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 針が曲がっていたり、針先がつぶれている場合 ② 針の取り付けが不完全な場合 ③ 粗悪なミシン針を使用した場合 ④ 糸くずが針板の下部に付着している場合 ⑤ 布地・ミシン糸・ミシン針の関係が悪い場合 ⑥ 布地と針板の針穴の関係が悪い場合 ⑦ 糸の通し方が間違っている場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 上糸・下糸の調子が不完全な場合 	<ul style="list-style-type: none"> ① 糸調子が強すぎる場合 ② 糸の通し方が間違っていたり余分な箇所糸が引っかかっている場合 ③ 押えの圧力が強すぎる場合 ④ 布地と針板の針穴の関係が悪い場合 ⑤ 薄地で送り歯が高い場合
<ul style="list-style-type: none"> ① 正しく直してください。9ページをご覧ください。 ② 正しく通してください。14ページをご覧ください。 ③ 小さなきずのとき→ペーパー(#800)のみがいてください。 大きなきずのとき→お買い上げの販売店に修理を依頼してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しい針と取り替えてください。4ページをご覧ください。 ② 正しく取り付けてください。4ページをご覧ください。 ③ ミシン針DB×1をご使用ください。 ④ 針板を取りはずして掃除してください。31～32ページをご覧ください。 ⑤ 正しい組み合わせにしてください。13ページをご覧ください。 ⑥ 付属品の薄物用針板に取り替えてください。31～32ページをご覧ください。 ⑦ 正しく通し直してください。8ページをご覧ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しい糸調子にしてください。14ページをご覧ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 薄物をぬうときは上糸、下糸とにもできるだけ調子をゆるくします。14ページをご覧ください。 ② 正しく通し直してください。8ページをご覧ください。 ③ 押え圧力調節ねじをゆるめて押え圧力を弱くしてください。 ④ 付属品の薄物用針板に取り替えてください。31～32ページをご覧ください。 ⑤ ドロップフィードつまみで送り歯の高さを直してください。3ページをご覧ください。

いつまでも大切に使うために

●いつもきれいに

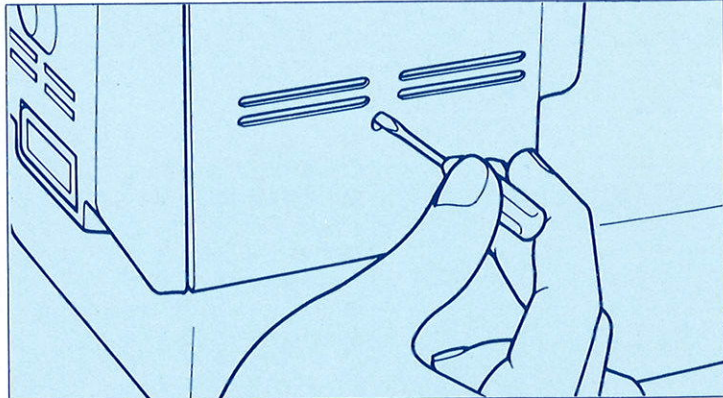


かるい汚れは、やわらかい湿った布でふいてください。ひどい汚れは中性洗剤に浸した布できれいにふき取ってください。

(注意)

- ① ストープやアイロンなどは近づけないでください。
- ② ベンジン・ガソリン・シンナーなどは使わないようにしてください。
- ③ 保管するときは、できるだけ直射日光をさけてください。

●ミシンが動かなくなった場合(糸がかまに くい込んだとき)



- ミシンの動かない状態が約2秒以上続きますと安全装置がはたらき、ミシンが自動的に止まります。
- ① ミシンが動かない原因を直してからねじ回し(小)の先端またはピンなどで、安全装置ボタンをかるく押し込んでください。
- ② ミシンが動かなくなってから約10秒以内は、安全装置ボタンを押さないでください。

仕様

●カーボンブラシを取り替えるには

このミシンに使用しているモーターには、カーボンブラシが2個取り付けられています。長くご使用いただくと、カーボンブラシが摩耗します。摩耗したカーボンブラシを、そのままお使いになりますと、モーターから火花が出たり、モーター故障の原因になりますのでご注意ください。

※カーボンブラシを取り替えたいとき

販売店でご購入いただき、交換・調整サービス(有料)を受けてください。

項目	仕様	
ぬい速度(最高)	毎分 1,500針	
ぬい目長さ(ピッチ)	0~7mm	
針棒のストローク	31.6mm	
天びんのストローク	59mm	
布押え高さ	押え上げてこ ひざ上げレバー	一段目 6mm 二段目 9mm 9mm
送り歯の高さ	0.7mm 1.1mm	
使用可能なミシン針	DB×1 #9~#18	
ベッドサイズ	399mm×178mm	
ふところの広さ	226mm×145mm	
ミシン総重量	10kg	
モーター定格	電圧100V 50/60Hz	
ビルトインランプ	電圧100V 12W 50/60Hz	
裁縫可能面積	595mm×285mm	

●アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。それ以後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。)
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、お買い上げ日から最低8年保有しています。
 - ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または右記の《お客様相談コーナー》へお問い合わせください。

お客様相談コーナー

札幌	011(737)6821	仙台	0222(27)8470
東京	03(265)8741	横浜	045(453)0591
静岡	0542(82)2951	名古屋	052(962)7631
大阪	06(768)3651	神戸	078(361)0823
広島	082(227)5781	福岡	092(741)3173

※上記の電話番号は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

株式会社 ジューキ

本社 〒104 東京都中央区八重洲2-7-2(八重洲三井ビル)
TEL 03(272)2851(代表)